

景気動向調査結果

この調査は、県内中小企業の景況・金融動向を把握するため、当協会の保証を利用されている企業の皆様のご協力により、四半期ごとにアンケートを実施しているものです。

【調査方法】

郵送による無記名アンケート方式
調査時点 平成26年3月5日発送
平成26年3月21日投函期限
調査対象 信用保証利用先1,500企業
有効回答数 355 企業(回答率 23.7%)

※ 当期:平成26年1月～3月実績見込
次期:平成26年4月～6月期予測

【DI値について】

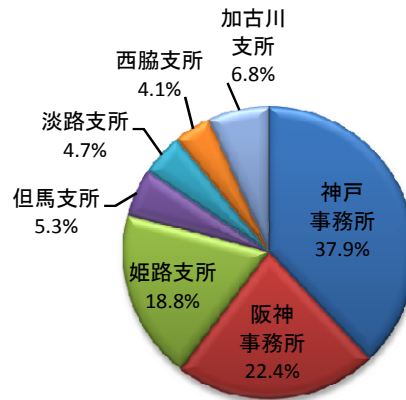
- ◎回答の各構成比を算出し、「増加」・「好転」等の項目割合から「減少」・「悪化」等の割合を差引いて算出しています
- ◎表示されている構成比とDI値は、四捨五入の関係で必ずしも一致しません

兵庫県信用保証協会

I. 貴社の概要について

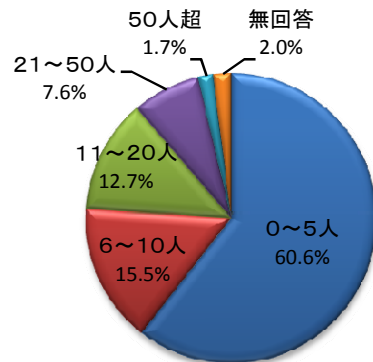
主たる事業所の所在地はどこにありますか。

当協会の部署	回答数	構成比
神戸事務所	129	37.9%
阪神事務所	76	22.4%
姫路支所	64	18.8%
但馬支所	18	5.3%
淡路支所	16	4.7%
西脇支所	14	4.1%
加古川支所	23	6.8%
小計	340	100.0%
地域不明・無回答	15	-
合計	355	-



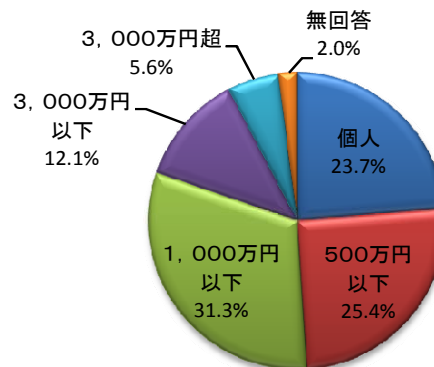
従業員数をご記入ください。

従業員数	回答数	構成比
0~5人	215	60.6%
6~10人	55	15.5%
11~20人	45	12.7%
21~50人	27	7.6%
50人超	6	1.7%
無回答	7	2.0%
合計	355	100.0%



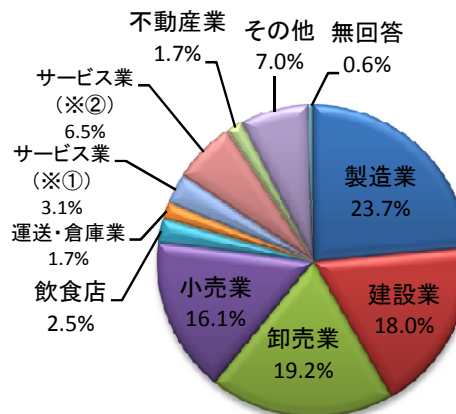
資本金をご記入ください。 ※個人は「0万円」と記入

資本金	回答数	構成比
個人	84	23.7%
500万円以下	90	25.4%
1,000万円以下	111	31.3%
3,000万円以下	43	12.1%
3,000万円超	20	5.6%
無回答	7	2.0%
総計	355	100.0%



主要な事業は以下のどの業種に分類できますか。

業種	回答数	構成比
製造業	84	23.7%
建設業	64	18.0%
卸売業	68	19.2%
小売業	57	16.1%
飲食店	9	2.5%
運送・倉庫業	6	1.7%
サービス業(※①)	11	3.1%
サービス業(※②)	23	6.5%
不動産業	6	1.7%
その他	25	7.0%
無回答	2	0.6%
合計	355	100.0%



※① 事業者を対象

※② 一般消費者を対象

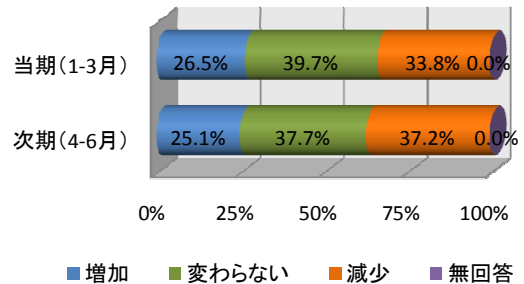
Ⅱ. 貴社の景況、借入難易感についてお尋ねします。

- (1) 当期(14年1～3月期)は、前期(13年10～12月期)に比べどのような状況ですか。
 (2) 次期(14年4～6月期)は、当期(14年1～3月期)に比べどう思いますか。

【生産・売上】

当期

選択肢	回答数	構成比
増加した	94	26.5%
変わらない	141	39.7%
減少した	120	33.8%
無回答	0	0.0%
総計	355	100.0%



次期

選択肢	回答数	構成比
増加すると思う	89	25.1%
変わらないと思う	134	37.7%
減少すると思う	132	37.2%
無回答	0	0.0%
総計	355	100.0%

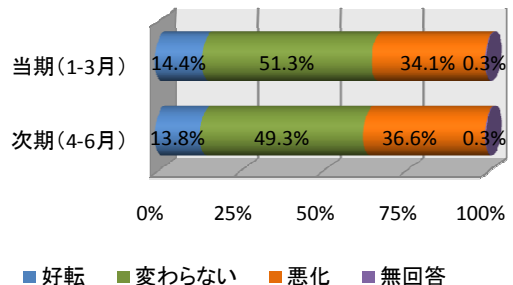
生産・売上DI(増加-減少)

調査時期(実績)	2012年1～3月	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年10～12月	2014年1～3月	2014年4～6月(見込み)
兵庫県	▲ 28.0	▲ 20.4	▲ 23.6	▲ 28.5	▲ 22.0	▲ 23.2	▲ 13.1	1.2	▲ 7.3	▲ 12.1

【採算】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	51	14.4%
変わらない	182	51.3%
悪化した	121	34.1%
無回答	1	0.3%
総計	355	100.0%



次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	49	13.8%
変わらないと思う	175	49.3%
悪化すると思う	130	36.6%
無回答	1	0.3%
総計	355	100.0%

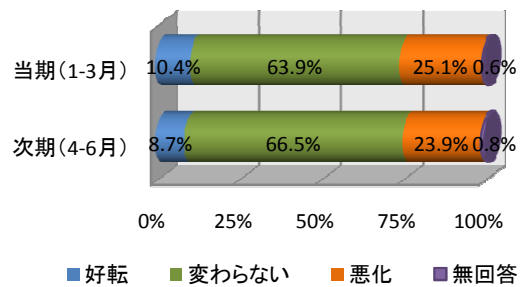
採算DI(好転-悪化)

調査時期(実績)	2012年1～3月	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年10～12月	2014年1～3月	2014年4～6月(見込み)
兵庫県	▲ 30.8	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 31.7	▲ 25.4	▲ 31.8	▲ 19.7	▲ 13.0	▲ 19.7	▲ 22.8

【資金繰り】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	37	10.4%
変わらない	227	63.9%
悪化した	89	25.1%
無回答	2	0.6%
総計	355	100.0%



次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	31	8.7%
変わらないと思う	236	66.5%
悪化すると思う	85	23.9%
無回答	3	0.8%
総計	355	100.0%

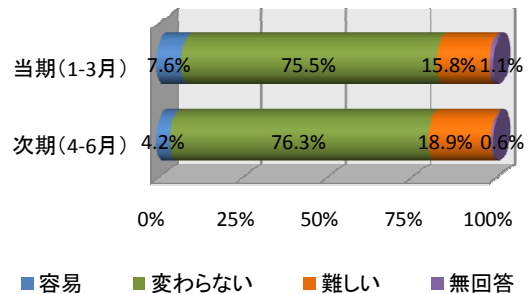
資金繰りDI(好転－悪化)

調査時期(実績)	2012年1~3月	2012年4~6月	2012年7~9月	2012年10~12月	2013年1~3月	2013年4~6月	2013年7~9月	2013年10~12月	2014年1~3月	2014年4~6月(見込み)
兵庫県	▲ 30.6	▲ 23.8	▲ 21.6	▲ 25.7	▲ 21.4	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 12.2	▲ 14.6	▲ 15.2

【借入難易感】

当期

選択肢	回答数	構成比
容易になった	27	7.6%
変わらない	268	75.5%
難しくなった	56	15.8%
無回答	4	1.1%
総計	355	100.0%



次期

選択肢	回答数	構成比
容易になると思う	15	4.2%
変わらないと思う	271	76.3%
難しくなると思う	67	18.9%
無回答	2	0.6%
総計	355	100.0%

借入難易感DI(容易－難しい)

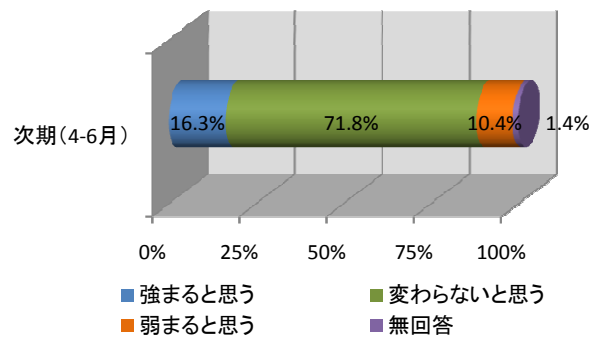
調査時期(実績)	2012年1~3月	2012年4~6月	2012年7~9月	2012年10~12月	2013年1~3月	2013年4~6月	2013年7~9月	2013年10~12月	2014年1~3月	2014年4~6月(見込み)
兵庫県	▲ 21.7	▲ 16.4	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 14.6	▲ 15.6	▲ 12.5	▲ 9.1	▲ 8.2	▲ 14.6

今回の調査では、当期(1-3月)に比べ次期(4-6月)のDI値が、「生産・売上」および「採算」、「資金繰り」、「借入難易感」の全項目で悪化しており、先行きについては慎重な見方が窺えます。

【金融機関からの信用保証付要請】

次期

選択肢	回答数	構成比
強まると思う	58	16.3%
変わらないと思う	255	71.8%
弱まると思う	37	10.4%
無回答	5	1.4%
総計	355	100.0%



信用保証付要請DI(強まるー弱まる)

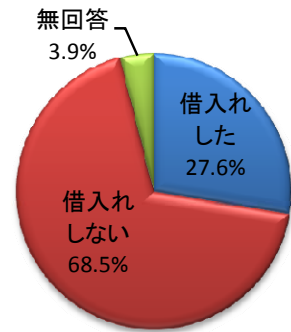
調査時期 (見込み)	2011年 10~12月 (1~3月)	2012年 1~3月 (4~6月)	2012年 4~6月 (7~9月)	2012年 7~9月 (10~12月)	2012年 10~12月 (1~3月)	2013年 1~3月 (4~6月)	2013年 4~6月 (7~9月)	2013年 7~9月 (10~12月)	2013年 10~12月 (1~3月)	2014年 1~3月 (4~6月)
兵庫県	7.6	3.1	7.6	7.3	11.9	6.6	8.9	5.6	6.4	5.9

金融機関からの信用保証付要請は、「強まると思う」とする回答が、「弱まると思う」とする回答を上回っています。

Ⅲ.当期(14年1～3月期)の借入れ(実績見込)についてお尋ねします。

当期に金融機関から借入れをしましたか。
※手形の割引は含めません

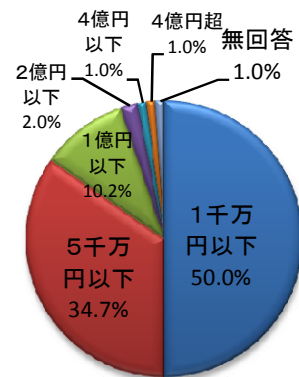
選択肢	1～3月期		10～12月期	7～9月期	4～6月期	1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
借入れした	98	27.6%	32.0%	28.6%	31.0%	30.4%
借入れしない	243	68.5%	64.3%	66.4%	65.8%	65.6%
無回答	14	3.9%	3.7%	5.0%	3.2%	4.1%
総計	355	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



当期の借入れは、前回調査と比べ、4.4ポイント減少しています。

当期に借入れした総額はいくらですか。

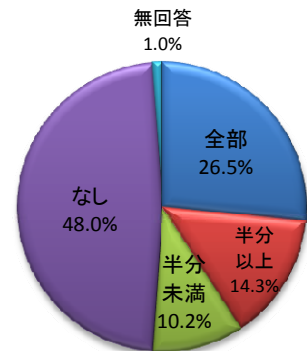
借入れ総額	1～3月期		10～12月期	7～9月期	4～6月期	1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
1千万円以下	49	50.0%	41.3%	45.6%	47.0%	51.8%
5千万円以下	34	34.7%	43.9%	36.9%	41.7%	40.2%
1億円以下	10	10.2%	5.2%	6.8%	4.3%	4.5%
2億円以下	2	2.0%	1.3%	5.8%	1.7%	0.9%
4億円以下	1	1.0%	0.6%	1.0%	0.0%	0.9%
4億円超	1	1.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.9%
無回答	1	1.0%	7.7%	3.9%	3.5%	0.9%
総計	98	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、当期の借入は「1千万以下」「5千万円以下」が0.5ポイント減少し、「1億円以上」が2.1ポイント増加しています。

当期の借入金額のうち、信用保証付き借入れの割合はどのくらいですか。

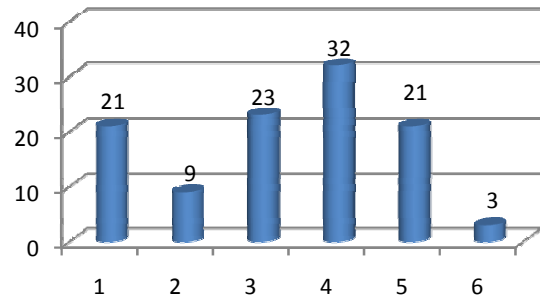
選択肢	1～3月期		10～12月期	7～9月期	4～6月期	1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	26	26.5%	31.0%	28.2%	35.7%	37.5%
半分以上	14	14.3%	5.8%	13.6%	11.3%	13.4%
半分未満	10	10.2%	17.4%	7.8%	6.1%	4.5%
なし	47	48.0%	39.4%	48.5%	47.0%	44.6%
無回答	1	1.0%	6.5%	1.9%	0.0%	0.0%
総計	98	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、信用保証付き借入れの割合は「全部」とする回答が、4.5ポイント減少しています。

上記の信用保証付き借入れの割合が「全部」「半分以上」または「半分未満」と答えた方にお尋ねします。信用保証を利用した理由は何ですか(複数回答)。

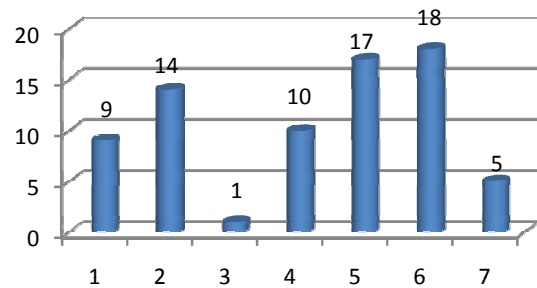
選択肢	回答数
1 自治体の制度融資を利用したため	21
2 担保・保証人不足だったため	9
3 長期資金の調達ができるため	23
4 金融機関が保証付きを求めたため	32
5 既往の保証付き借入れの借換えのため	21
6 その他	3
総計	109



信用保証を利用した理由は「金融機関が保証付きを求めたため」が一番多く、次いで「長期資金の調達ができるため」となっています。

上記の保証付き借入れの割合が「なし」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか(複数回答)。

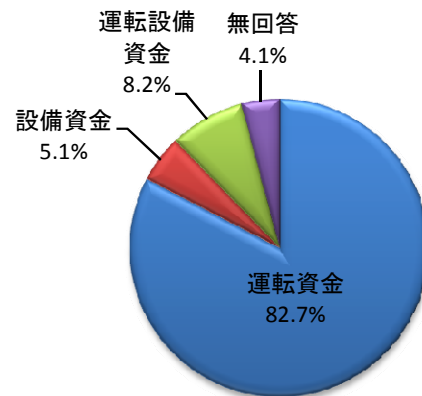
選択肢	回答数
1 保証料の負担を避けるため	9
2 保証を付けない借入れの借換えだったため	14
3 保証枠を既に使っていたため	1
4 すぐに必要な資金であったため	10
5 短期資金であるため	17
6 金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため	18
7 その他	5
総計	74



保証付き借入れがない理由は「金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため」が一番多く、次いで「短期資金であるため」となっています。

当期借入金の目的は何ですか。

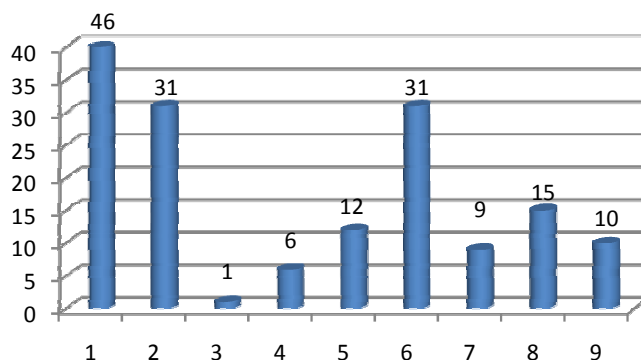
選択肢	回答数	構成比
運転資金	81	82.7%
設備資金	5	5.1%
運転設備資金	8	8.2%
無回答	4	4.1%
総計	98	100.0%



当期借入金の目的は、「運転資金」とする回答が大半を占めています。

上記で「運転資金」「運転設備資金」と答えた方は、運転資金の種類は何ですか(複数回答)。

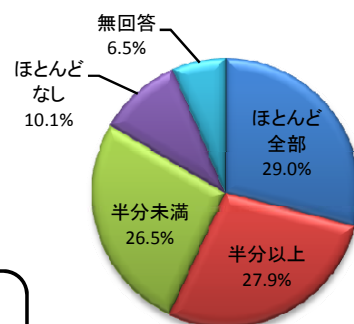
選択肢	回答数
1 既往借入の借換え	46
2 売上減少・赤字補填	31
3 過剰在庫対応	1
4 支払条件短縮対応	6
5 回収条件悪化対応	12
6 売上増加運転資金	31
7 在庫積み増し	9
8 季節運転資金	15
9 その他	10
総計	161



運転資金の種類は、「既往借入の借換え」が一番多く、次いで「売上減少・赤字補填」「売上増加運転資金」となっています。

IV. 信用保証の利用についてお尋ねします。当期末(14年3月末)借入総残高に占める信用保証利用の割合はどのくらいですか。

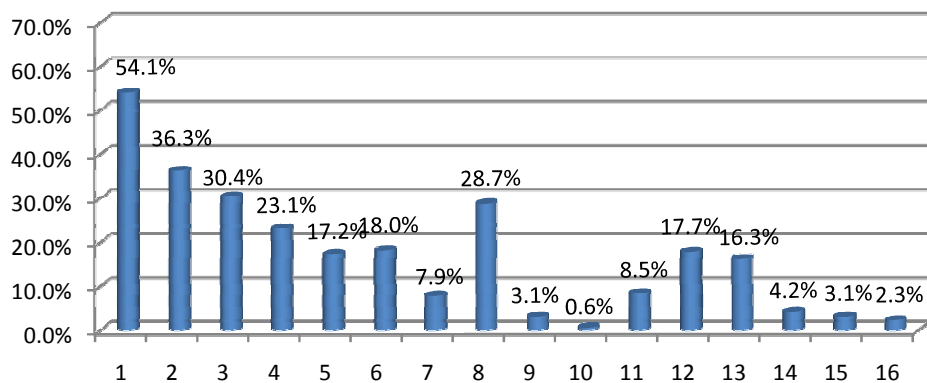
選択肢	1~3月期		10~12月期	7~9月期	4~6月期	1~3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
ほとんど全部	103	29.0%	32.6%	28.9%	27.0%	29.9%
半分以上	99	27.9%	26.0%	26.9%	28.0%	25.4%
半分未満	94	26.5%	27.8%	26.9%	28.0%	27.2%
ほとんどなし	36	10.1%	9.7%	10.3%	10.0%	11.6%
無回答	23	6.5%	3.9%	6.9%	7.0%	5.8%
総計	355	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



信用保証利用の割合は、「ほとんど全部」「半分以上」「半分未満」とする割合が、同程度となっています。

V. その他(経営上の課題等)について該当する番号をご記入ください(複数回答)。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
1 売上・受注の減少	192	54.1%	9 過剰在庫	11	3.1%
2 競争激化	129	36.3%	10 過剰設備	2	0.6%
3 コスト高	108	30.4%	11 後継者難	30	8.5%
4 業界構造変化	82	23.1%	12 資金調達	63	17.7%
5 取引条件の悪化	61	17.2%	13 借入過多	58	16.3%
6 消費者ニーズの多様化	64	18.0%	14 為替	15	4.2%
7 技術・商品開発	28	7.9%	15 中国・韓国問題	11	3.1%
8 人材・労働力の確保	102	28.7%	16 その他	8	2.3%



経営上の課題は、54.1%が「売上・受注の減少」、36.3%が「競争激化」となっています。次いで、「コスト高」「人材・労働力の確保」「業界構造変化」の順となっています。